

第14号

中病だより

島根県立中央病院広報誌 2011.11

〒693-8555 島根県出雲市姫原四丁目1番地1

TEL 0853-22-5111 FAX 0853-21-2975

Mail spch@spch.izumo.shimane.jp

URL <http://www.spch.izumo.shimane.jp/>

題字 岩成 治 / 表紙写真 セントラルヘリコプターサービス(株)



市民公開講座を開催して

～もし、がん手術後に「私のカルテ」を使ったら～ …… 2

当院の取組み

安全な医療環境を目指して【下】 …… 3

日本臨床救急医学会認定

救急認定薬剤師の資格を取得して …… 4

島根県立中央病院の

シンボルマークが決定しました！！ …… 4

4階西病棟 新人看護職員研修頑張っています！ …… 5



はじめまして！

フライトナースです！！ …… 6

災害支援金の集計のご報告 …… 8

はたけゆくん、せもんちゃんがやってきた！！ …… 8

緊急被ばく医療 ～さまざまな放射線測定機器～ …… 9

新棟等建設工事について …… 10

第4回病院局親睦ソフトバレーボール大会 …… 11

お知らせ 病院システムの更新作業 …… 12

外来診療一覧表 / 編集後記 …… 12

市民公開講座を開催して ～もし、がん手術後に「私のカルテ」を使ったら～

がん地域連携ワーキンググループリーダー 今田敏宏（総合診療科 医長）

9月11日（日）島根県立中央病院において、「がん地域連携パス」について市民公開講座を行い、院内外から約100名の参加をいただき、寸劇を交えながらがん地域連携パスの仕組みやメリットなどを説明しました。

以降、市民公開講座で紹介した「がん地域連携パス」の内容を紹介をします。

「がん地域連携パス」とは？

「がん地域連携パス」とは厚生労働省の指導の下に、患者さんの安心と便宜のために治療を行った基幹病院とかかりつけ医、患者さんをつなぐ治療検査計画書です。

島根県立中央病院では 患者さんに分かりやすく、かつ質の高い医療を目指して「5大がん」（乳がん、肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん）のがん地域連携パスを活用しています。

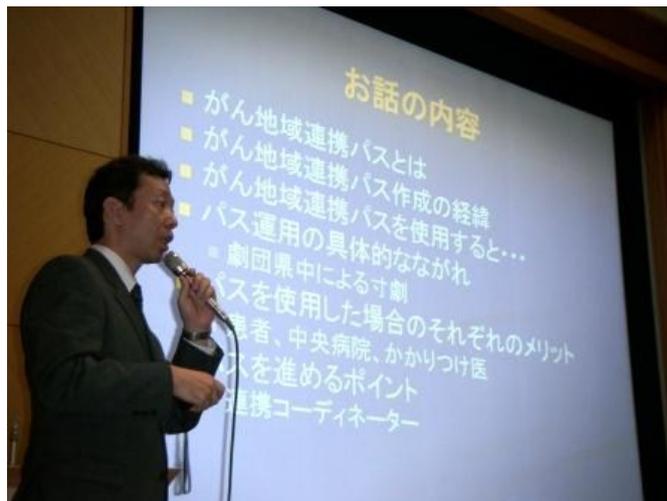
がん地域連携パスでキーになるのは患者さんが持つ「私のカルテ」です。私のカルテに示された治療計画表に基づき、普段の診療や血液検査、内服薬の処方はこちらかかりつけ医が、節目の診療となる3～6か月毎のCT（コンピューター断層撮影）など画像検査は専門医が行い、検査結果などの情報を医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーが共有して診療にあたります。

このように多職種でチーム医療、機能分担、情報共有を進めることにより、島根県でより良いがん診療ができるよう努めています。また、病院の外来集中の緩和、通院や待ち時間の短縮、かかりつけ医にかかる安心感などが期待できます。

当院では、平成23年7月からスタートし、がん治療後、あるいは治癒切除後の方を対象として、現在乳がん、肺がん、肝臓がんの患者さん7名に運用しております。

これからの日本・島根

これから10～20年で団塊世代の人たちがいわゆる「がん年齢」に入り、がん患者がますます増えてきます。比較的症状が落ち着いた患者さんは、がん地域連携パスを利用することによってコメディカルを含めた医療関係者が支える仕組みを作り、より良いがん診療を行うと共に、がん専門医が専門の仕事に専念できるよう進めていきたいと思っております。



がん地域連携パスの説明をする今田医師



寸劇の一コマ 【医師が治療検査計画を確認】

講座の参加者からは「この仕組みを他のがん種にも広げて欲しい」、「自分たちの地域にも促進して欲しい」、「「私のカルテ」の検査項目の解説が欲しい」などご意見をいただき、今後の検討課題にしたいと思います。

2人に一人ががんにかかる時代。「自分ががんになったらこうあって欲しい。」を形にしていく仕組み作りに皆様のご協力をお願いいたします。

● 当院の取組み

安全な医療環境を目指して【下】

～ 安全な入院生活を送っていただくために ～

医療安全推進室 室長補佐 伊藤日登美

医療安全推進室は、“ヒヤリ・ハット”（日常診療の現場で“ヒヤリ”したことや“ハッ”とした経験）報告の集計や分析を行い、不具合やエラーを未然に防止する仕組みや、再発防止策を検討したり、対策の周知を行ったりしています。

取組みのひとつとして、入院中に起こる転倒やベッドからの転落防止対応があります。特に、高齢患者さんの転倒やベッドからの転落は、重大な傷害になりやすく、受傷することで日常生活に支障を来す事があります。また、ご家族の皆さんの生活にも影響を及ぼすこともあります。

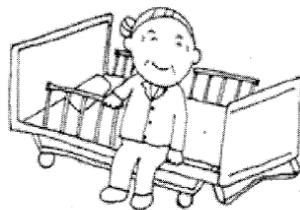
当院の転倒や転落事例のうち、約60%が70歳以上の患者さんです。入院患者さんの3人に1人が70歳以上という現状から、転倒や転落防止策は、患者安全において重要と考えています。

具体的な対策として、トイレの段差を解消したり、シャワー室の床を滑りにくいようにしたり環境の改善を行ってきました。今年度は、転倒の要因で最も多い、排泄行為の転倒防止策として、安定性があり患者さんの運動機能に合わせて高さや手すりを変更することができるポータブルトイレを全体で120台配置しました。

また、患者さんによっては、周囲に対する気遣いから一人で動こうとして転倒や転落してしまう危険があります。私たちは、可能な限り患者さんの側につき添い、安全の確保に努めていますが、医療従事者だけの対応策では限界があると感じています。

そこで、平成22年5月より入院される患者さんやご家族の方に、「安全な入院生活を送っていただくために」のパンフレットで情報提供し、ご協力をお願いしています。

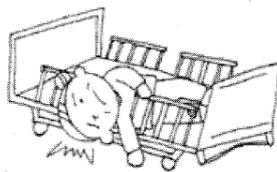
近年、患者参画の医療安全が推奨されております。患者さんご自身も「ん、何かおかしい?!」と感じられた場合などご遠慮なく医療従事者へご相談ください。なぜそうなったか患者さんと一緒に考えることで安全な医療の提供に役立てたいと思います。



両足をしっかりと床につけて立ちましょう!



柵をしましょう



身体が挟まれないように注意!



ベッド背もたれを上下する時 身体の位置注意!



深く座りましょう!



足台に足を乗せましょう!



フレーキをかけましょう 足台を挙げて降りましょう!



背もたれに体重かけ過ぎ注意!



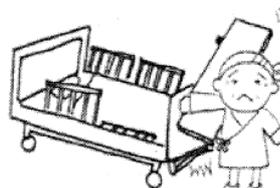
段差・障害物に注意!



カーテンの網に注意!



オーバーテーブルや床頭台に 寄りかかり注意!



オーバーテーブルに手を つかないよう注意!

日本臨床救急医学会認定

救急認定薬剤師の資格を取得して

薬剤局薬剤科 薬剤専門員 寺西正充



日本臨床救急医学会における第1回救急認定薬剤師の認定審査が行われ、平成23年7月28日付けで27名の救急認定薬剤師が認定されました。そして、その中の一人として私も認定を取得することができました。

当院は、三次救急機能の救命救急センターを有し、島根県の救急医療の中心的役割を担っています。そして、平成20年4月より救急医療の充実を目指して、救命救急センターに薬剤師が常駐し、365日体制で業務を行っています。

近年、全国的にも救急・集中治療領域への薬剤師の配置が急速に増加しており、多職種とチーム医療を実践して積極的に業務に取り組んでいる薬剤師が多くの施設で見られるようになりました。しかし、実際に業務を行うにあたっての標準化はまだされていない状況にあります。

そこで、日本臨床救急医学会は日本病院薬剤師会の協力を得て、救急医療における薬物療法に関する高度な知識、技術、倫理観を備えた認定薬剤師を養成し、最適な治療を提供すること、国民の健康に貢献することを目的に救急認定薬剤師制度を創設しました。

救急・集中治療領域での薬剤師業務は、患者や医師および他の医療スタッフへの医薬品情報の提供と共有、投与量や投与方法の確認、副作用と効果の確認、薬剤の投与设计、医薬品の管理など、基本的には一般病棟の薬剤師が実施する業務と同じです。しかし、救急・集中治療領域での特徴として、治療方針が決定し薬剤が投与されるまでの時間が極めて短いこと、直接医療者と対話ができない患者が多いということがあります。また、薬毒物中毒という救急患者に特異的な症例や、災害医療へのかかわりという特徴的な点もあります。そして、医師や看護師などの医療スタッフと連携をとって情報を共有しながら、医療チームの一員として薬剤師の視点から患者治療に参加することが求められています。



ここまで書いて、この度の認定取得に対して改めて身の引き締まる思いがします。当然のことながら、この資格の取得がゴールではありません。気分を新たに初心に帰り、常日頃より知識・技能・態度を研鑽して救命救急領域に携わる薬剤師としての資質の向上と維持に努め、薬剤師がチーム医療に参加することで、少しでも患者の医療の質の向上に貢献できればと考えています。

島根県立中央病院のシンボルマークが決定しました！！

シンボルマークは、職員それぞれが抱えている『より良い医療を提供しようとする「志」や「思い」を形にし、県民の皆さんに知ってもらおう』という趣旨で職員から公募し、決定しました。



- Shimane : Satisfactory (申し分の無い)
- Prefectural : Professional (専門の)
- Central : Comfortable (気持ちのよい)
- Hospital : Humanity (思いやりのある)

島根県土に島根県立中央病院の英語標記の頭文字を重ね、4つの文字を丸くし「しまね(る)」を表しています。

また、それぞれの文字は「Satisfactory」「Professional」「Comfortable」「Humanity」のある医療を実践する意味を含め、文字を左上がり配置し進み続けるイメージを表しました。

4階西病棟

新人看護職員研修頑張っています！



当院では新人看護師の教育手法としてフリセプターシップ制度を導入しています。

これは先輩看護師（フリセプター）が新人看護師（フリセプティ）の指導者となってペアを組み、指導目標が達成できるような段階的な育成計画を作成し、日常業務を通じてマンツーマンで指導を行います。

看護師（プリセプター） 堀内 千津鼓

私は、4階西病棟に異動して2年目になります。腎臓科、泌尿器科の専門的知識・技術が必要な部署であり、1年が経過した今でも分からないことが多く、不安な状況でした。そんな中でのプリセプター任務だったため、プリセプターをするにあたり、私にできるだろうかという思いでいっぱいでした。また、年齢も離れているため、初めはどのように接し指導していけばよいのかについても悩みました。しかし、病棟スタッフ一人ひとりが日々の業務の中で少しずつ指導・助言をしてくれ、自分ひとりで全てをしなればいけないという気負いはなくなりました。むしろ、自分も一緒に勉強していけばいいのだという気持ちになり、自分の気持ちに余裕を持つことが出来ました。

当病棟は、スタッフ間の関係がとてもよく、声をかけ合い何事も協力しながら行っています。そして何よりも病棟スタッフがプリセプターを大切にしている気持ちが、話しかけやすい雰囲気をつくり、プリセプターにとっても、安心して日々の業務が行える大きな理由であると思います。

今後もスタッフ全員で新人を支援し、共に成長していきたいと思っています。

新人看護師（プリセプティ） 石飛 多恵子

4月から仕事を始めて7カ月が過ぎ、少しずつ毎日の生活や仕事に慣れてきたと感じています。勤務当初は、分からないことだらけで毎日不安でしたが、プリセプターはじめ先輩の方に現場で指導を受ける中で、観察のポイントや注意点など丁寧に説明してもらうことで、少しずつ自分でケアを行えるようになってきました。一人でケアや処置を行うようになってからも、スタッフの皆さんに、顔を合わせると「大丈夫？困っていることない？」と声をかけて下さり、いつも安心感があります。4階西病棟は、分からないことが聞きやすい雰囲気、困ったときには誰にでも聞くことができ、アドバイスをもらえるので働きやすいなど感じています。

病院全体では、定期的に新人研修が企画されており、臨床現場で機会の多い場面を想定して対処方法を学び、新人同士お互いの前で点滴や注射などの技術をシミュレーションで行うなど、自分自身の日々の看護業務の見直しをすることができています。また、研修会は、新人同士で集まる機会にもなるので、情報の交換や悩みを共有でき、リフレッシュの場になり意欲の向上にも繋がっています。

まだまだ技術も知識も未熟ですが、先輩方に分からないことは相談し、自分自身でも自己学習をしながら成長していきたいと思っています。

副看護師長 妹尾 千穂

初々しい新人看護師2名を4階西病棟に迎えて、7カ月が過ぎようとしています。

新人教育についてこの7カ月を振り返ってみると、プリセプターだけでなく、病棟のスタッフ全員で役割に関係なく、新人看護師の指導に関わってきたと感じています。様々な年代、様々な個性のスタッフが、時にはやさしく、時には厳しく指導を行って来ました。指導に当たっては、スタッフ個々が培ったそれぞれの看護観や指導観、経験知を持って関わってきたので、新人看護師にとっては1人のスタッフがつきっきりで指導するよりも、より多くのことを吸収できたのではないかと考えています。また、優しい姉、兄、母のようなスタッフも多いため、仕事のことだけでなく、「夜は寝れている？」「ご飯は食べれている？」「休

みの日は思いっきり遊んでいる？」など精神的な面にも気を配っている様子をよく目にしています。

7カ月を過ぎた新人看護師を見ていると、チームの一員として責任を持って仕事をしている様子がかがえ、頼もしく成長していると実感しています。緊張していた顔から、最近ではいい笑顔が見られるようになり、病棟やスタッフに溶け込んできたことがうかがえます。

アットホームな4階西病棟で成長した新人看護師が「看護師になって良かった」「看護って楽しい」と思えるような環境をこれからもスタッフ全員で作っていききたいと思っています。

中病だより 第14号 島根県立中央病院

バックナンバー <http://www.spch.izumo.shimane.jp/annai/kohoshi/index.html>



**はじめまして！
フライトナースです！！**

6月13日から島根県ドクターヘリの運航が開始し、10月末時点で出動件数は249件となりました。

今回は、ドクターヘリに搭乗するフライトナースがドクターヘリについて紹介します。

フライトナース Q&A

Q1. ドクターヘリの目的、メリットは？

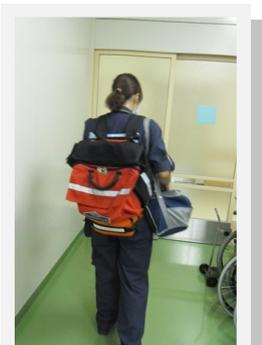
救命救急医療を必要とする患者さんのもとへ専門医及び看護師を素早く送り届け救命処置を開始すること、また適切な医療機関へ迅速な搬送が可能になることです。

1分1秒を争う緊急患者の適切な治療がいち早く行われることにより、救命率の向上や後遺症の軽減が期待されます。

Q2. フライトナースはどんな仕事をするのですか？

フライトドクターと一緒に重症な患者さんのもとへ行き、治療処置介助や患者さんやご家族への対応、医療機関への搬送を行います。

また、ドクターヘリで使用する機器や診療に使用する物品の管理・点検、消防機関や当院以外の医療機関の方々との連携、さらにドクターヘリ運航に関わる安全管理の一端も担っています。



出動時は、両肩に医療用バックを担いで出動！！

Q3. フライトナースはどんな資格が必要？

看護師経験5年以上、救急看護経験3年以上の看護師で、専門的な研修を受講することが必要です。

Q4. 専門的な研修とはどんなことをするのですか？

ドクターヘリ講習会の受講、消防署での救急車同乗実習、実際のドクターヘリに搭乗した研修です。



機体に搭載されている医療機器の動作確認も大切な仕事です

Q5. ドクターヘリの運航時間は？

原則、午前8時30分～午後5時15分

季節による日没時間を考慮して

終了時間が変動します

365日毎日運航します。

ただし、霧や雪、強風など天候が悪い場合は運航できません。

Q6. 患者さんは何人乗れますか？

2人まで可能ですが、座席の関係上 基本的には1人です。

Q7. ドクターヘリ内は揺れますか？

揺れはありますが、揺れの程度は救急車に比べると非常に少ないです。ただ、飛行中の天候によっては揺れの程度が大きくなることもあります。

ドクターヘリ運航実績 (6/13~10/31)

搬送区分	地域									
	松江	安来	出雲	雲南	大田	江津 邑智	浜田	益田	隠岐	計
現場救急	0	3	54	38	20	6	3	0	2	126
転院搬送	1	0	5	34	23	11	5	21	19	119
キャンセル	0	0	1	2	1	0	0	0	0	4
計	1	3	60	74	44	17	8	21	21	249

出動時の装備、フライトスーツの紹介



隊員の右胸には
ドクヘリのワッペン



フライトスーツ

風になびかず動きやすく
燃えにくい素材

薬品バック



安全靴

重いものが落ちてきても大丈夫！！

靴底が厚く、釘等の踏み抜きの心配もありません！！

アンビキュランス バック



診療材料が入っており、重さは6.5kg！！

出動時には、このバックを担いで現場へ向かいます p(^-^)-q

フライトナースは体力も必要！！

フライトスタッフの体制

・フライトドクター

救命救急医、現在5名が交替で勤務します。

・フライトナース

救命救急センター外来に勤務する6名。

現在新たに4名がフライトナースになるため、研修中です。

・パイロット

現在3名が交替で勤務、元自衛隊やサラリーマンなど経歴は様々ですが…みんなベテラン。

・整備士

現在2名が交替勤務。

ヘリの整備はもちろん、助手席で消防との無線交信、ヘリの安全管理をしています。

・運航管理者(CS:コミュニケーションスペシャリスト)

現在は5名程度で交代勤務。病院1階の運航管理室で、出動要請の受付や時間管理など、運航の全体的な流れをコーディネートします。

運航開始までには、専門的な研修を受けたり、物品の準備などを行ったりと様々な用意を行ってきました。

運航開始からあっという間に5カ月が過ぎました。初めての事業ということもあり、みんな必死にやってきたというのが現状ですが、少しずつ業務に慣れてきました。

フライトナースは、救急要請に備えるため常に緊張感があり、自己の精神コントロールが必要です。そして、病院外という特殊な環境での活動のため、出動時は精神的にも体力的にも予想以上に疲れます。また、夜勤業務に従事したり、日中の待機時には救命救急センター外来の業務を行ったりしています。このため、フライトナース一人ひとりが体調管理に気を付けています。

ドクターヘリ事業は、住民の皆さんのご理解とご協力が必要であり、県内の関係機関・地域住民の皆さんの理解を得られるような広報活動も大切だと思います。今後とも、ドクターヘリ事業にご理解とご協力をお願いいたします。

災害支援金の集計のご報告

平成23年3月14日から行ってまいりました東日本大震災における災害支援金の受付につきまして、9月7日時点で集計しました結果をご報告いたします。

819,415円

この支援金につきましては島根県を經由し、日本赤十字社へ寄託し義援金として被災者の方へ届けられます。

引き続き支援金の受付を行いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

ムラタセイサクくん、セイコちゃんがやってきた！！

出雲村田製作所による科学の出前授業があり、ロボットの「ムラタセイサクくん、セイコちゃん」が8月25日（木）に島根県立中央病院にやってきました。

子供と保護者ら10人が参加し、体験コーナーでは、小学生の児童が通信用スティックでロボットを動かすなど、楽しみながら科学を学ぶことができました。



本紙編集者は一輪車に乗れませんが、セイコちゃんは一輪車をバランスよく乗っていました w(◉0◉)w



緊急被ばく医療 ～さまざまな放射線測定機器～

医療技術局 放射線技術科

診療放射線専門員 吉岡 隆二

放射線技術科では、X線撮影装置、CT撮影装置、血管撮影装置、MRI撮影装置、シンチカメラ装置、放射線治療装置など多くの機器を使用して検査や治療を行っています。

今回は、皆さんが良く知っているこのような機器とは別の放射線技術科で取扱っている機器を紹介したいと思います。

その前に皆さんにぜひ知っておいて頂きたいのが「緊急被ばく医療体制」です。これは東日本大震災で発生した福島第一原子力発電所の事故のような放射線災害や、放射性物質などを使用する施設（研究施設や病院など）で起こる放射性物質による被ばくや汚染を伴う事故に対応できるように構築された医療体制です。

緊急被ばく医療は救命救急医療の体制と同様に「初期」、「二次」、「三次」という体制となっています。

- ・初期被ばく医療機関：外来診療
- ・二次被ばく医療機関：入院診療
- ・三次被ばく医療機関：より専門的な入院診療

当院は、この体制の中で二次被ばく医療機関の役割を担っています。二次被ばく医療機関では、被ばく患者さんの診療や汚染を伴う患者さんの身体の除染や治療、ホールボディカウンタを用いた内部被ばくの測定を行います。

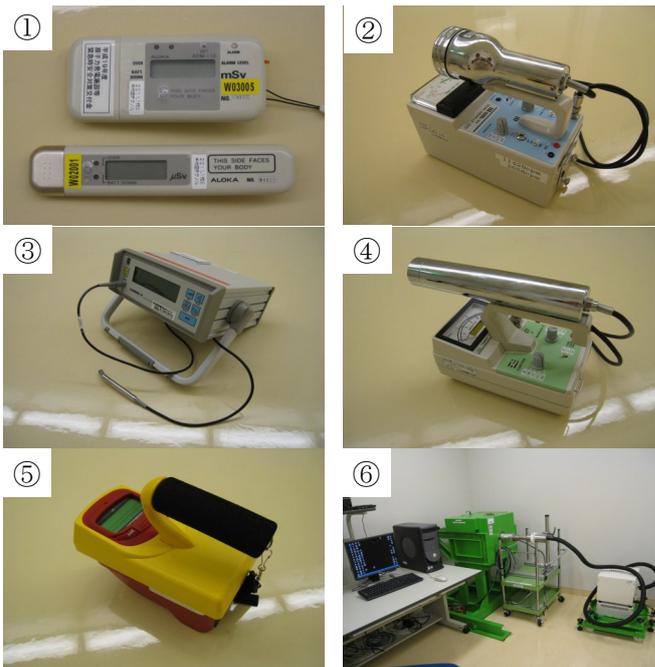
そのとき、われわれ診療放射線技師が被ばくや汚染の量などを測定するために使用する測定機器が当院にはたくさんあります。

個人の被ばく線量を測定するポケット線量計、身体の表面汚染の測定をするGM計数管式サーベイメータ、傷口などの狭い範囲の放射能を測定する傷モニター。また、放射線の線量率を測定する電離箱式サーベイメータ・NaI(Tl)シンチレーション式サーベイメータ、放射性物質の種類を同定するゲルマニウム検出器などもあります。

さらに特殊な機器では、体内に取り込まれた放射性物質を測定するホールボディカウンタ（簡易型）があります。この機器は、体内にある放射性物質から放出されるガンマ線を計測し、短時間で体内の微量の放射能を測定する機器です。当院の

機器では、体内にあるヨウ素131、セシウム137、コバルト60からのガンマ線を測定することができ、測定できる放射能の量の下限は500Bq（ベクレル）くらいです。また、測定時間は胸腹部の体幹部用は10分、甲状腺用で1分です。この測定により体内に取り込まれた放射性物質の摂取量を知ることができ、内部被ばくによる線量が評価できます。

このように放射線技術科では、日常の臨床で使用する装置以外にもさまざまな機器を取り扱えるようにして、放射線災害や事故にも対応できるよう備えています。



①ポケット線量計 ②GM計数管式サーベイメータ
③傷モニター ④シンチレーション式サーベイメータ
⑤電離箱 ⑥ゲルマニウム検出器



ホールボディカウンタでの測定
(左；体幹部測定 右；甲状腺測定)

新棟等建設工事について

当院は平成11年8月に現在の場所に新築移転し、12年が経ちました。

この間、医療の進歩・多様化、環境の変化にともない、より一層「医療・看護の質」を高めることを目指して新棟の建設を行います。

工事期間中は、工事車両の往来、立ち入りの制限がありますので、ご理解よろしくお願いします。

また、病院西側の駐輪場については、仮設の駐輪場を設置しておりますので、そちらをご利用ください。



● 感染症診察室棟 ●

建設場所；病院西側（外来用駐輪場付近）

建物構造；鉄骨造（1F） 256.95㎡

工期予定；平成23年9月6日～平成24年1月31日

施設設備；診察室3部屋、処置室、採痰室、
更衣室、車両寄せ など



↑ 感染症診察室棟の完成予想図

← 現在の工事状況

◆ 新 棟 ◆

建設場所；病院北東側（職員夜間専用駐車場）

建物構造；鉄骨造（3F） 1,228.87㎡

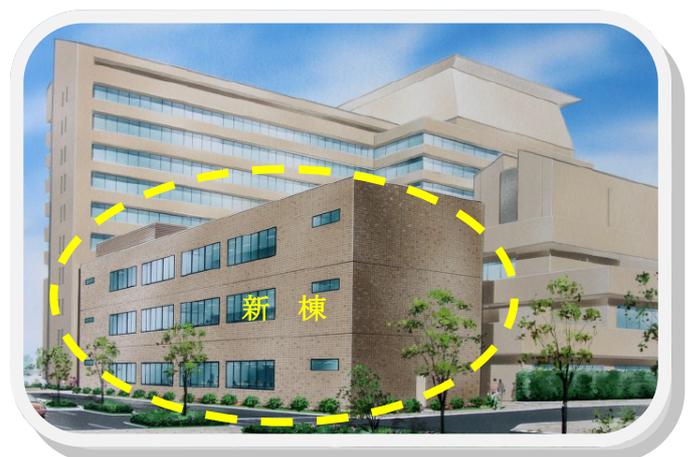
工期予定；平成23年10月5日～平成24年3月31日

施設設備；医療局職員室、職員談話室、医療秘書室

IIMS研修室、シミュレーター室 など



↑ 現在の工事状況



↑ 病院北東から見た新棟完成予想図

第4回

「病院局親睦ソフトバレーボール大会」が開催されました!

10月10日（月）体育の日に、中央病院と県立こころの医療センターから14チームが参加し、親睦ソフトバレーボール大会が開催されました。

優勝目指して練習を重ねてきたチームもあり、一球一打に選手や応援する仲間も一喜一憂!! 職場や職種に関係なく、職員の親睦を図ることが出来ました。



優勝した「チーム潮」
 堅実なレシーブと若手攻撃陣が
 かみ合って初優勝!!



↑
 チーム応援にも力が入ります
 ↓



災害医療訓練（航空機事故）に参加しました

10月6日（木）、出雲空港で航空機事故に対する「航空機火災消火救難訓練」が実施され、当院からDMAT（1チーム）が訓練参加しました。

訓練想定は、大阪から乗客を乗せた航空機が着陸に失敗し滑走路を逸脱。草地で停止後に破損した機体から火災が発生し、乗客に多数の負傷者が発生した状況でした。

当院DMATは、現場災害本部と現場救護所に分かれて活動を行い、現場災害本部では消防署と連携し、機体から救出される患者情報、救護所での治療状況及び搬送先の調整などを行いました。

また、救護所では医師会の医師、日本赤十字島根県支部の医療班と島根大学医学部の看護師と合同で機体から搬出された負傷者の治療を行いました。

1時間半の実動訓練でしたが、他の医療機関や消防署との情報共有、伝達など課題が見え、災害時はスムーズに医療が展開できるように関係機関との連携を深めたいと感じました。



負傷者の搬送先調整を行う医師（左）

医師会と負傷者の処置を行う看護師（左）



中病だより 第14号 島根県立中央病院

バックナンバー <http://www.spch.izumo.shimane.jp/annai/kohoshi/index.html>

島根県立中央病院では、下記日程で病院システムの更新作業を行います。

その間、救命救急外来の受診は可能ですが、診察等でお時間を要する場合がございますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

★ システム更新作業日；平成23年12月23日（金）～25日（日）

★ お 問 合 せ 先；島根県立中央病院（情報システム管理室）

電話 0853-22-5111（代）

お知らせ

外来診療表【 一般（初診）】

平成23年10月1日時点

診 療 科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合診療科	○		○		○		○		○	
精神神経科	○		○		○		○		○	
神経内科	○		○		○		○		○	
呼吸器科	○					*1○	○	*2○		
消化器科	○		○		○		○			
循環器科	○		○		○		○		○	
リウマチ・アレルギー科	○			○	○		○		○	
血液腫瘍科	○				○		○		○	
内分泌代謝科	○		○		○	○	○		○	
外科	○		○		○		○		○	
乳腺科	○		○		○					
整形外科	○		○		○		○		○	
脳神経外科	○		○		○		○		○	
呼吸器外科					○				○	
心臓血管外科	○				○				○	
泌尿器科	○		○				○		○	
小児外科			○				○			
腎臓科	○		○				○			
形成外科		○			○				○	
皮膚科	○		○		○		○		○	
眼科	○		○		○		○		○	
耳鼻咽喉科	○		○				○		○	
歯科口腔外科	○		○		○		○		○	
小児科	○		○		○		○		○	
産婦人科	○		○		○		○		○	

*1 … 16時まで受付け可能

*2 … 14時まで受付け可能

編集後記

すっかり朝晩が寒くなり、秋らしい季節になりましたねえ。

「スポーツの秋」「食欲の秋」「読書の秋」「芸術の秋」など秋は楽しむことがたくさんありますが、私は趣味の温泉巡りをするのが楽しみです。島根県は温泉がたくさんあります。紅葉も始まり、露天風呂から見る自然の景色は最高ですよ！！出雲市周辺ですと「立久恵温泉・御所寛場（出雲市）」「亀嵩温泉（奥出雲町）」、変わった泉質を好むなら「池田ラジウム鉱泉（大田市）」がお勧めです。

これから気温が低くなり体調を崩しやすい季節ですので、十分に健康に気をつけましょう！！ 【RH】